

宝塚市立西谷小学校 いじめ再発防止行動計画

令和6年(2024年)4月

[illegible]

基本方針				取組	実 施 時 期														
柱	方向性	取組内容	目指す姿	具体的行動	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	中期	長期	
2 子どもの 主体性 を育てます	子どもの 主体性を 育む授業 へ転換し ます	主体的・対話的で深い 学びの教育を年間 を通じて進めます	友達の意見を大事し ながら、主体的に課 題解決に取り組む子 ども	主体的・対話的で深い学びをふまえた校内授 業研究を実施します。 日々の学習活動で合意形成を図る話し合い の場の充実を図ります。													→	継続	継続
	子どもが 参画する 学校づくり を行います	学校行事は子ども主 体で行います	集団への一員である ことに対する自覚を 高め、人と人とのふれ あいやつながりを深 める子ども	児童会で学校における諸問題について考え、 行事については児童が主体となって話し合 い、実施します。	会議 1年生を迎 える会	会議	運動会	会議				音楽会 図工展	会議		会議	6年生を 送る会			
	児童会・生 徒会を活 性化しま す	サミットで学校間交 流を図ります	学校や地域の課題を 把握し、課題解決に 向けて思考する子ど も	市で行う児童会サミットに参加し、意見交換を 行います。	→				サミット	サミット結 果を全児 童に報告	→						→	拡充	拡充
	子どもへの エンパ ワメントを 促進しま す	CAPの活用と検証を 行います	自分の思いを言葉や 態度で表現できる子 ども	中学年でCAPの授業を行い、自分の心と体 を守る予防教育を実施し、その成果と課題を つかみます。									授業						
		いじめ防止教育につ ながるゲストティー チャーの授業を行います		弁護士や警察官、大学教授など、人権に関す る講師による児童対象の出前授業を実施しま す。										授業					継続
4 チー ム学	学校の組 織対応力 を向上さ せます	教師がSOSを出せる 教師集団を作ります	同僚性を高め、互いに 信頼し合える教職員	学年や専科の枠を超えて相談できる場やチー ムで対応できる体制の充実を図ります。					討議					討議			継続	継続	
		多職種連携を推進し ます	互いの専門性を信頼し、 連携できる学校組織	各担当、SC、SSWがそれぞれの専門性を活かし、各 ケースに対応したチーム会議を開催します。	ケース会 議												→	継続	継続
	地域ぐるみで子ども を見守ります	情報を発信し、家庭・地 域に開かれた学校	学校運営協議会、青少年育成市民会議等で、学校の様子を説 明し、地域で子どもを育むことの協力を求めます。	学校運営協議会			学校運営協議会					学校運営協議会			学校運営協議会			継続	継続

基本方針				取組	実 施 時 期													
柱	方向性	取組内容	目指す姿	具体的行動	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	中期	長期
校 で 取 り 組 み ま す	子どもを 育む地域 や関係機 関との連 携を行いま す	保育所・幼稚園・中小 学校の連携を強化し ます	中学校区における目 指す子ども像の実現 に向けた教育の連携 を推進する保幼小中 学校園所	中学校区の子どもの実態等の情報交換を行 い、いじめに対する学校の指導体制・指導内 容の充実を図ります。	園小中管 理職打合 せ会					園小中管 理職打合 せ会					中学校部 活見学と 体験授業 幼稚園と の交流給 食と交流 授業		継続	継続
		関係機関との連携を 図ります	関係機関と情報を共有 し、迅速に対応できる学 校組織	学校の各ケースについて、常に家庭児童相談室、青少年 センター等と組織的に連携を図ります。	連携												継続	継続
5 ハ ラ ス メ ン ト に 対 す る 体 罰 及 び	体罰を根 絶します	体罰の禁止を徹底し ます	子ども一人ひとりの人 権を守ることに徹する 教職員	体罰・ハラスメントの根絶に向けた事例研修を 実施し、教職員の人権意識を高めます。	学校通信 全校集会 研修			研修					研修				継続	継続
	あらゆる ハラスメ ントを根絶 しま す	あらゆるハラスメント を根絶しま す			学校通信 全校集会 研修			研修					研修				継続	継続